

大学等の「復興知」を活用した地域共創人材育成・定着推進事業(令和8年度～令和12年度)採択結果一覧（申請受付順）

| 番号 | 大学・高等専門学校名 | 学部・研究科等名 | 事業責任者 | 共同申請校 | 事業名 | 事業のポイント | 連携市町村 |
|----|-----------------|---|-----------------------------------|-----------|--|--|-------------|
| 1 | 国立大学法人 東京大学 | 教育学部・教育学研究科 | 教育学研究科 教授 大塚 類 | － | 双葉町における教育・起業・地域の連携による人材育成プロジェクト ：学校を中核とした包摂的コミュニティの共創 | 双葉町をフィールドに、「教育」と「起業」を軸とした人材育成と定着を図る。「全員が与える側になる」を理念とし、教員・起業志望の学生に実践的インターンを提供する。新設校（2028年4月開園・開校）や拠点「edulab.ふたば」をハブに、地域住民・子ども・学生が双方向に学び合う、包摂的なコミュニティを共創する。 | 双葉町 |
| 2 | 国立大学法人東京農工大学 | 農学部、工学部、大学院農学府、大学院先進学際科学府、大学院工学府、大学院連合農学研究科 | 大学院グローバルイノベーション研究院 教授 安達 俊輔 | － | 農業復興・就農促進のための食農イノベーション共創人材育成プログラムの実践 | （１）農業復興のための食農イノベーションに関する実践的教育研究を推進 （２）「食農アクティビサーチ」と「食農アクティブラーニング」のユニークな教育、人材育成プログラムを開発 （３）食農イノベーション地域共創人材の育成 （４）「強い農業・食料安全保障」を牽引する生産者、技術者、研究人材の育成 | 富岡町 |
| 3 | 国立大学法人 弘前大学 | 被ばく医療総合研究所、保健学研究科、理工学研究科、農学生命科学部、教育学部 | 副学長 床次 眞司 | － | 地域共創による保健・環境・教育分野の復興人材育成・定着事業 | 過去の「復興知」事業等の成果を基盤として、浪江町及び富岡町と連携し、大学生等や地域住民を対象に保健・環境・教育分野の人材育成プログラムを実施する。大学生等に対しては、インターンシップ等の現地滞在による実践型教育や地域に定着した卒業生との情報交換を通じて地域理解を深める機会を設け、地域定着を促進する。 | 浪江町 富岡町 |
| 4 | 国立大学法人 宇都宮大学 | 地域創生推進機構社会共創促進センター、農学部、地域デザイン科学部、工学部、データサイエンス経営学部、共同教育学部、国際学部 | 農学部 准教授 松英 恵吾 | － | 森林を核とした地域協働型人材育成プログラムの構築 －あぶくま田村モデルフォレスト構想 | 本事業は森林を単なる施業や木材生産の対象としてだけでなく、地域の暮らしや環境、防災、生業、文化の基盤となる公共的資源として捉え、現場における多様な主体との利害調整、合意形成、対話、協働設計を自ら担い、森林を起点に地域を動かせる人材を育成するとともに、地域協働の基盤を構築することを目的としている。 | 田村市 |
| 5 | 国立大学法人 東京大学 | 先端科学技術研究センター・附属エネルギー国際安全保障機構 | 特任准教授 飯田 誠 | ・福島工業高等学校 | 復興未来人材共創プログラム | 地域課題を起点に、「支える・繋げる・広げる」視点に基づく人材育成を通じて、学生・地域住民・企業・自治体等が継続的に関わり合う関係性を構築する。本事業では、現地での対話や実践、共創のプロセスを重視し、地域の実情に根差した知見を蓄積することで、人材が地域内外を循環しながら定着する仕組みの実装を目指す。 | いわき市 |
| 6 | 獨協大学 | 経済学部国際環境経済学科・環境共生研究所 | 経済学部 国際環境経済学科 教授 米山 昌幸 | － | 脱炭素社会と環境配慮型持続可能なまちづくり創造事業 | 本学と浜通り地域等の市町村との間で継続的な関係を構築し、「外国語教育」「環境教育」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、脱炭素社会と環境配慮型持続可能なまちづくりを目指す。これにより、社会課題に取り組む人材育成、イノベーションの実現や復興まちづくりに貢献する人材育成や新たな担い手の拡大を目的とする。 | 田村市 |
| 7 | 国立大学法人 新潟大学 | 研究統括機構、医学部（保健学科・医学科）、農学部、工学部、災害・復興科学研究所、教育学部、法学部、脳研究所、理学部 | 理事・副学長 小野寺 理 | － | 復興知集積による医・環境次世代人材育成 | 新潟大学は、高度放射線調査、健康支援、住民との対話や交流などを通じて、浜通り地域との協働により復興知を蓄積してきた。これらの復興知を活用し、持続的発展を支える基盤の構築を目指し、南相馬市では出前授業等を通じた次世代教育、大熊町では放射線調査等を通じた実践的人材育成に重点を置いた人材育成を推進する。 | 南相馬市 大熊町 |
| 8 | 郡山女子大学 | 生活科学部 | 食物栄養学科 主任教授 岡部 聡子 | － | 葛尾村における安心な暮らしの可視化と地域共創人材の育成 －暮らし・食・観光をつなぐ総合的地域モデルの構築－ | 葛尾村において「安心して暮らせる地域」の実現を目指し、食・暮らし・観光を融合した実践型プロジェクトを展開する。学生参画による人材育成と地域資源の価値化・商品開発、観光連携による地域企業の活性化と県内企業との連携を図り、交流人口の拡大を通じて自走可能な地域モデルの構築と国内外への知見発信を行う。 | 葛尾村 |

大学等の「復興知」を活用した地域共創人材育成・定着推進事業(令和8年度～令和12年度)採択結果一覧（申請受付順）

| 番号 | 大学・高等専門学校名 | 学部・研究科等名 | 事業責任者 | 共同申請校 | 事業名 | 事業のポイント | 連携市町村 |
|----|----------------|--|--|--------------------|-------------------------------------|---|--------------------------|
| 9 | 東京農業大学 | 応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部 | 国際食料情報学部 アグリビジネス学科 教授 半杭 真一 | — | 東京農大の実学が拓く農林業の人材育成・研究プロジェクト | ・過去15年間の「東京農大東日本支援プロジェクト」の実績を活用した支援事業 ・技術系・経営系という車の両輪で駆動させる幅広い課題解決 ・過去の実績から生み出した行政・NPO・農協・森林組合・農業法人・個人などのネットワークの活用 | 相馬市 |
| 10 | 東京農業大学 | 総合研究所 農学部 応用生物科学部 地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産業学部 | 応用生物科学部 学部長 山本 祐司 | — | 体験型・実践型インターンによる人材育成と地域農業・産業再生 | 福島県浪江町・双葉町を中心に農業・地域企業への人材定着に向けて、地域課題に密着した体験型・実践型インターンプログラムを本学の学生および社会人に対して実施し、「地域づくりコーディネーター」育成および特産品開発と発信等による地域農業・産業再生に取り組む。 | 浪江町 双葉町 |
| 11 | 国立大学法人 東京大学 | 農学部・農学生命科学研究科 | 農学生命科学研究科 教授 西村 拓 | — | 飯舘村における地域共創人材育成教育研究プログラム | 飯舘村の復興には若者のワクワク感が鍵になる。本事業では復興農学を基盤に、飯舘村をフィールドとしたスマート農業と地域課題解決を統合した教育研究プログラムを実施する。学生の起業や関係人口化を通じて、従来の就職依存型ではない新たな人材定着モデルを構築し、地域の持続的発展に資する人材供給システムを創出する。 | 飯舘村 |
| 12 | 国立大学法人長崎大学 | 原爆後障害医療研究所、医歯薬学総合研究科、総合生産科学研究科、医学部保健学科、歯学部、情報データ科学部、福島未来創造支援研究センター | 福島未来創造支援研究センター センター長 高村 昇 | ・福島大学 ・福島県立医科大学 | 災害・被ばく医療科学分野の人材育成を通じた地域共創・定着推進事業 | 住民とのリソコミ、教育機会の提供を通じて住民の安全・安心を担保すると同時に、種々のインターンシッププログラムやセミナーを通じて災害被ばく医療科学や地域医療・保健・福祉、環境放射能学を担う人材、さらに福島国際研究教育機構をはじめとする浜通りの研究機関等でグローバルレベルの研究教育を行う人材を根付かせる。 | 川内村 富岡町 大熊町 双葉町 |
| 13 | 近畿大学 | 農学部、経営学部、総合社会学部、文芸学部等 地域創生農業研究所、法人本部社会連携推進センター等 | 法人本部社会連携推進センター センター長 渥美 寿雄 | — | “オール近大”川俣町発・復興人材育成プロジェクト | ・複数の重点分野（A～D）を中心に多種多様な教育研究プログラム（プログラム群）を開発し、大学生・地域住民に対して適用（実施）する。 ・総合大学としての強み（研究力・教育力・実行力・発信力）を活かし、近畿大学の総力を挙げて、“オール近大”で事業を実施する。 | 川俣町 |
| 14 | 国立大学法人 東北大学 | グリーン未来創造機構 災害科学国際研究所 | グリーン未来創造機構 機構長・理事・副学長 湯上 浩雄 | — | BOSAIから総合知と地域・文化を学び地域で活躍する人材育成プログラム | 東北大学の総合知による「BOSAI人材育成」を基盤とし、「地域に根付く大学等の人材育成」及び「地域住民向けの人材育成」向けの福島県浜通りコンテンツも新たに加え、BOSAIから総合知と地域・文化を学び地域で活躍する人材育成を実施する。 | 浪江町 いわき市 |
| 15 | 国立大学法人 大阪大学 | 核物理研究センター、放射線科学基盤機構、社会価値デザイン機構 | 核物理研究センター センター長 中野 貴志 | — | 放射線科学と地域協働による福島浜通り共創人材育成・定着プログラム | 浜通りを「生きた研究教育フィールド」として大阪大学福島拠点が放射線環境・復興評価と医療イノベーションを推進。研修・研究・インターンで人材育成と定着、産業共創・住民還元を5年で実装し国際発信する。 | 飯舘村 大熊町 双葉町 |
| 16 | 早稲田大学 | 環境総合研究センター | ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター センター長 アジア太平洋研究科 教授 松岡 俊二 | — | 福島・学びの場形成事業 | 福島復興は15年を経て、帰還困難や人口減少という厳しい課題に直面している。本事業は、中等教育（ふたば未来学園）や研究機関（F-REI）を繋ぎ、多様な「学びの場」を形成することで、復興・廃炉を担う人材を育成する。また、産官学民の広域連携により、持続可能な地域社会の構築と創造的復興モデルの提示を目指す。 | 広野町 富岡町 |

大学等の「復興知」を活用した地域共創人材育成・定着推進事業(令和8年度～令和12年度)採択結果一覧（申請受付順）

| 番号 | 大学・高等専門学校名 | 学部・研究科等名 | 事業責任者 | 共同申請校 | 事業名 | 事業のポイント | 連携市町村 |
|----|----------------|--|-------------------------------|-------|--|--|---------------------------|
| 17 | 国立大学法人 東北大学 | 農学部・農学研究科 | 農学研究科 教授 北柴 大泰 | － | 「農学知」を活かした浜通り地域における新たな農・食産業創出のための人材育成 | 東北大学農学研究科が浜通りで培ってきた実践的な「農学知」を基盤に、耕畜連携・先端酪農技術、先端陸上養殖技術、高収益作物栽培等の農林水産分野の新産業を題材として、学生向け実習・インターンシップと地域住民向け講座を展開し、復興と地域産業の担い手を育成する。 | 浪江町 葛尾村 |
| 18 | 国立大学法人 福島大学 | 農学群食農学類、教育推進機構 | 理事・副学長 新田 洋司 | － | 食農・ふくしま未来学の現地展開加速による人材育成と担い手拡大 | 「取組A 食農研究を基盤とした浜通りでの専門教育と人材育成」「取組B 全学教育プログラム「ふくしま未来学」整備による地域人材育成と担い手拡大」および「取組C 食農・ふくしま未来学の連携を活かした現地小中高生や社会人等への人材育成」を実施し、復興・地域再生に貢献する人材育成と定着、担い手の拡大を図る。 | 南相馬市 川内村 大熊町 飯館村 |
| 19 | 日本大学 | 工学部・工学研究科 | 工学部 教授 浦部 智義 | － | 産学官民連携による「ロハスコミュニティ」の実践を通じた地域共創人材の育成 | 「ロハスコミュニティ」の実践知を基盤に、交流拠点づくりとその利活用・地域内外の交流促進を担う地域共創人材の育成を5年間を通して図るものである。葛尾村復興交流館を核とした公共施設活用型の持続可能な交流拠点づくりと富岡駅前を核とした公共空間活用型のにぎわい創出拠点づくりを実践フィールドとして位置づける。 | 葛尾村 富岡町 |
| 20 | 慶應義塾大学 | 総合政策学部、環境情報学部 大学院政策・メディア研究科、 SFC研究所「ドローン社会共創コンソーシアム」 | 総合政策学部 教授 古谷知之 | － | 「高度AI人材育成・浜通りモデル」の構築 | 「ロボット・ドローン」を主なテーマに、田村市といわき市で高度AI人材育成を行う。①慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生・大学院生を対象とした企業インターンシップや企業との技術開発を通じた地域課題解決を通じた地域に根づく大学生の育成、②地域の高校や企業を対象とした地域住民向けの人材育成、を実施する。 | 田村市 いわき市 |
| 21 | 福島工業高等専門学校 | 機械システム工学科 | 副学長（復興支援・広報担当） 教授 鈴木 茂和 | － | 地域と若手が共に育つロボット×農業×環境再生人材共創プログラム | 川内村・飯館村を対象に、複合災害からの復興課題を実践的に学ぶ教育研究を行う。川内村ではワイナリーでの鳥獣被害対策や住民交流、出前授業により地域理解を深める。飯館村では土を軸としたサイエンス勉強会、農業機械化、環境再生事業への参加や教育支援を通じ、対話力と合意形成力を備えた次世代人材を育成する。 | 川内村 飯館村 |
| 22 | 公立大学法人会津大学 | 先端情報科学研究センター ロボット情報工学クラスター | コンピュータ理工学部 教授 渡部 有隆 | － | 大学と地域によるコミュニティづくりと地元へ貢献する人材育成 | 南相馬市を現地フィールドとして、南相馬市、他大学、地域企業、高校等と構築した連携体制のもと、学生がインターンシップに参加するとともに、教員及び学生が、地元住民を対象としたロボット・ICT分野の教育支援を実施し、浜通り地域において将来的な産業発展に寄与できる人材を育成することを目指す。 | 南相馬市 |
| 23 | 福島県立医科大学 | 保健科学部 | 保健科学部理学療法学科 学科長 教授 柴 喜崇 | － | 次世代保健医療人材の育成と浜通り発・高齢者健康長寿社会の実現 | 本事業は多職種連携の人材育成、IoT活用の地域共創モデル構築、復興知の継承と放射線リスクの3本柱で展開する。本事業を正規カリキュラム化し、地域病院や自治体、施設等への入職と地域定着を目指す次世代保健医療人材と共に、浜通りから高齢者が誇りを持って暮らせる自立的かつ持続的な健康長寿社会の実現を目指す。 | 南相馬市 飯館村 |
| 24 | 立命館大学 | 総合心理学部、産業社会学部、理工学部 | 副学長 総合心理学部 教授 佐藤 達哉 | － | 地域共創による人材育成プログラムの展開～準住民共創パートナーシップのプラットフォーム形成をめざして～ | 福島県浜通り地域を実践的教育研究のフィールドとし、大学の先端的研究力と地域に蓄積された実践知を融合した人材育成を推進する。震災・原子力災害後の人口減少や産業転換等の複合課題に対応し、地域の持続的復興と新たな社会価値の創出を主体的に支える人材を育成することを目的とする。 | 大熊町 川俣町 双葉町 楢葉町 |